

チャリティーショップの 環境・社会貢献活動強化事業

ひろげる助成

3年目

実践

研究会の開催

1回

障がい者による
衣類仕分け受入人数

520人/日

今年度計画の達成度

100%

目標達成度

70%



全国のC.S.運営団体が集う研究会の様子

課題

チャリティーショップ(C.S.)運営団体はまだ少なく、店舗運営に関する情報がほとんど共有されていない。そのため、一部のC.S.運営団体による先進事例が他団体に広がっていない。

目標

C.S.における先進的な活動の効果や課題が整理され、多くのC.S.運営団体が情報を共有し、それらを参考にした新規の活動が生まれている。

活動内容と成果

名古屋地域のC.S.において、以下の社会実験を実施した。

①寄付品回収ボックスの設置・運営 ②売れ残り食器の海外リユース活動 ③障がい者による衣類仕分け活動 ④被災地における寄付品提供イベントの開催及び協力

さらに今年度は、障がい者就労支援団体によるC.S.の運営について調査した。上記の社会実験と調査の結果を、日本各地のC.S.運営団体の代表者及び事務局責任者等が参加する研究会で共有し、学び合う機会を設けた。



売れ残り食器を輸出用コンテナに詰め込む

苦労した点と工夫した点

■苦労した点

名古屋で行った四つの社会実験は、いずれも分野の異なる団体との連携が必要なものだったため、対話の中でお互いが納得できる着地点を見出すように心がけた。

■工夫した点

寄付品回収ボックスは当初、寄付品が溢れたり、寄付品が持ち去られたりとトラブル続きだったが、容量を増やし、外から中の寄付品を取り出せなくすることで解決できた。



改良した寄付品回収ボックス

全助成期間の活動を振り返って

日本各地にC.S.運営をする様々な非営利団体があり、それらの団体と情報を共有し、お互いに刺激し合うことで、C.S.運営団体の能力がさらに向上する可能性を感じる事ができた。しかし、C.S.運営団体はそれぞれ独自の課題を抱えているため、他地域のC.S.運営団体の成功事例をそのまま共有することは難しかった。

| 活動地域 |  名古屋市

〒461-0002 愛知県名古屋市東区代官町39-18

日本陶磁器センタービル5階

電話：052-982-9079

E-mail: staff@es-net.jp

http://www.es-net.jp/



今後の
展望

今後は、名古屋市内でのチャリティーショップのさらなる普及に取り組みつつ、市民の皆さんに3Rの重要性や社会貢献活動への参加の意義を発信していきたい。また、日本チャリティーショップ・ネットワークの加盟団体とともに、チャリティーショップ運営に関するノウハウや課題の共有を行い、日本におけるチャリティーショップ文化の創生に貢献していきたい。